



British Council Japan Association 会長就任にあたり

齊木臣二

(順天堂大学大学院医学研究科神経学 (脳神経内科))

この度、伝統ある British Council Japan Association (BCJA)の会長に就任させていただきます齊木臣二 (2005 年 BCJA 奨学生) と申します。British Council 奨学生の諸先輩方が、帰国後も各分野で活躍され、そして志を絶やすことなく続けられてきた BCJA 奨学金事業を含む諸活動を引き継ぎ、発展させるという責務をよく自覚し、先生方のご指導を仰ぎながら前を向いて進んで参りたいと考えております。どうぞ、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

まず今回の会長就任の経緯についてご説明申し上げます。私は 2005 年に BCJA 奨学生にご選出頂き、2008 年まで Cambridge Institute for Medical Research, University of Cambridge に留学させていただきました。オートファジー (2016 年に大隅良典先生がその解明による功績でノーベル医学生理学賞を受賞) と神経変性疾患についての研究に没頭し、2008 年 4 月に帰国後も、現所属にて英国留学中のテーマを含め、研究を継続しております。これも一重に英国留学を支えてくださった方々のサポートの賜物と感謝しております。帰国後に御礼を申し上げるべく BCJA 総会に出席させて頂き、以降少しずつ奨学生選考などのお仕事に携わらせて頂くようになりました。特に 2010 年 11 月には英国大使館にての BCJA 奨学金 10 周年とのパーティーを横川信治先生 (会長、当時) を中心に企画させて頂いたことは今も記憶に鮮明に残っております。また、友人と開催している英国留学者交流会を 2011 年以降毎年実施し、BCJA の先生方もお招きできる形にして参りましたが、Covid-19 蔓延下の 2020 年以降の休止のまま現在に至っております。改めまして、多くの先生方にお集まり頂けるような会を再開し、ご案内させて頂ければと考えておりますので、その節はご参加頂けましたら幸甚です。

周知のように、2020 年 1 月に Brexit が完了し、英国内外の人の移動に大きな変化が生じると予測されておりましたが、同年 3 月頃からの Covid-19 蔓延による影響、2022 年 3 月からのウクライナ危機による影響が複雑に絡み合い、状況は引き続き混沌としております。2019 年以降、大学生命科学系研究者としての感覚では、Brexit によって英国と日本との学術交流への期待は日英共に膨らみ、大学レベルでの二国間交流は補強される面もございました。留学時代の大切な友人の中で、3 名がそれぞれ

Plymouth University、Birmingham University、Newcastle University で独立し、研究室を主宰していることもあり、彼らと人材交流を含めた共同研究を推進しておりました。しかし、それぞれが中国人、インド人、ウクライナ人であり、今回のウクライナ危機により、この長年の友人関係までがロシアとの距離感に強く影響を受け、分断されてしまうリスクを感じております。また現時点では、日英それぞれの予断を許さない経済情勢から、学術分野の将来も楽観視できません。そのような不安定な状況の中でも、草の根の人間関係として、小さいけれど国際的な対話のチャンネルを保持し、繋げていくために、奨学金事業を中心とした BCJA の活動を支えて参る所存です。近年の厳しい社会情勢の中でも、BCJA 奨学金申請者は極めて優秀な人材が多く、そして毎年 50 名を優に超えておりますことは大変に喜ばしく誇らしく、未来が明るいかもしれないと期待させてくれます。何とか財政基盤を強め、サポート体制の増強をしなければと考えておりますので、今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健康とご多幸をお祈りし、会長就任の挨拶とさせていただきます。